

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和3年10月28日(木)
指導者 武藤しのぶ, 山内 健, 佐藤 雄悦
田中真二朗, 竹村 智子, 佐々木 敦

1 単元名 人はどうして働くのだろう？

2 生徒に働かせたい「見方・考え方」と目指す生徒の姿

地域での職場体験や働く人々の考え方を基に、働く意義について他の意見を取り入れながら深く考え、自己の生き方に生かしていこうとすること



地域の仕事やその仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、働くことの意義と自分自身の生き方との関わりに気づき、働くことの意義を自分との関わりで考えるとともに、今後の学習や生活の在り方に積極的に生かそうとする姿。

3 生徒と単元

(1) 生徒について

アンケート調査を実施したところ、将来の夢や目標をもっていると答えた生徒が63.8%であった。比較的多くの生徒が、自分の将来について考えていると言える。しかし、どのようにしてその職業に就けるかという問いに対しては、その進路や資格などについて具体的に答えられる生徒は少なく、将来についてただ漠然と考えている生徒がほとんどであった。また、働く目的や理想とする仕事について質問したところ、以下のような結果となった。

働く目的については、「自分の夢をかなえるため」と答えた生徒が35.1%であった。このことから、働く目的と将来の夢や目標とのつながりが具体的でない生徒が多いと言える。また、「お金を得るため」「家族の暮らしを守るため」と答えた生徒を合わせると43.5%と高く、半分近くの生徒がお金や自分の生活に関わることが働く目的だと考えていることが分かる。「地域に貢献する」「社会とつながる」ために働くと考えている生徒はほとんどいなかった。理想とする仕事については、「大きな会社に勤める」「ふるさとを離れて働く」ことを理想としている生徒がそれぞれ約25%と割合が高く、半分の生徒が大都市圏で大きな会社で働くことが理想だと考えている。その反面、「お金よりも働きやすさや時間のゆとり、人との関係を重視する」という生徒も27.3%と同様に高いことから、生徒は好きなことや得意なことを生かして楽しく働き、収入を得ることを望んでおり、働くことの厳しさや大変さについての認識は甘いと言える。

これまでの進路学習でも、生徒は働くことを遠い将来のことと捉え、社会が今どんな人材を求めているのか、職業に就くために何を身に付けていなければならないのかについての意識が希薄であると感じる。

(2) 単元について

職業や自己の将来については、これから3年生となり中学校卒業後の進路選択をしなければならない2年生にとって、切実かつ現実的な課題の一つである。この課題について、具体的な体験活動や調査活動、仲間との真剣な話し合いを通して学び合う機会をもつことは、自己の生き方を具体的、現実的なものとして考えることにつながると思われる。また、このことは自己の将来を力強く着実に切り拓いていこうとする資質や能力、態度の育成において極めて重要であると考えている。この考えに基づき、働くことについての探究活動に取り組むことを通して、働く意義や価値、さらには自己の将来の生き方を深く考えることをねらいとし、本単元を設定した。

小単元1では昨年度行った職業調べを生かしつつ、働くことについてどんなイメージ、考えをもっているのか意見交換をしながらその考えを広げ、働くことに対しての疑問から個人のテーマを設定する構成とする。小単元2では職場体験学習を行い、働くことの意義や価値を考え、グループや学年での話し合いや意見交換を通して自己の考えを深められる構成とする。このプロセスを通して、自分自身の特徴を内省的に捉えたり、周囲との関係で理解したりして、学ぶ意味や自己の将来について考えられるような構成とする。

(3) 指導について

本単元では、働くことについての探究活動を進めるにあたって、調べたことやそれに対する自己の考え、意見などをお互いに出し合い、他者の考えを受け入れながら、協働して行う学習を多く取り入れることにより、その質を高められるようにする。

単元の導入では、働くことについてイメージしていること、その目的などについて思っていることを自由に挙げさせ、意見交換しながら働くことに対して考える意識をもたせる。また、働くことの意味と実際に働いている人が考える、働くことの違いを考えさせるとともに、疑問に思ったことを基に個人のテーマを設定させる。職場体験学習では個人のテーマを意識させながら、目的をもった体験活動を行わせる。職場体験学習後は、生徒一人一人が体験したことや学んだことなどをレポートにまとめ、それを基に働く意義や価値について再度考えさせる。さらに、グループでの話し合いや学年での発表と意見交換を行わせることで、働くことを様々な視点から捉えさせ、自己の考えを広げたり、深めさせたりしていきたい。

このような探究活動を通して、働く意義や価値を理解させ、自分の生活及び地域との関わりや今後の進路選択、将来設計、自己の生き方について深く考えていこうとする態度を身に付けさせたい。

4 本時の展開 (17/18時)

(1) 本時のねらい

職場体験の発表や意見交換を基に、働くことについての自分の考えとの比較や関連付けを行いながら、考えを深めることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	学習形態	○指導上の留意点 【評価の観点】 (方法) ◎つまりきと手立て
導入 5分	1 めあてを把握する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">働くことについて、自分の考えを深めよう</div>	全体	○本時はグループで互い発表をし、意見交換しながら自分の考えを深めることが目的であることを確認する。
展開 40分	2 それぞれのグループの発表を観て、意見交換を行う。 発表の流れ (ワールドカフェ方式) ・各グループの発表を観る (3分) ↓ ・意見交換し、各自ワークシートにメモする (5分) ※この発表の流れを4回行う。 (8分×4回) 3 自分の考えをまとめる。	グループ 個人 個人	○あらかじめ録画しておいたそれぞれのグループの発表や意見交換をサポートする。 ○発表を観ながら、気付いたことや質問したいことなどをメモするように指示する。 ○意見交換を活発に行わせるために、聞く側からは質問だけでなく、感想や意見を述べさせ、発表する側からは聞く側へ積極的に質問できるように支援する。 ○ワークシートには、働くために身に付けたいことベスト3を理由も含めて書くように助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◎まとめられない生徒には、ワークシートに書かれた自己の考えと各グループ発表で提示されたキーワードとを比較させることで、まとめられるようにする。</div> ○グループをサポートする教員が、本時のめあてに基づいて、生徒の変容を見取る。 ・職場体験の発表や意見交換を基に、働くことについての自分の考えとの比較や関連付けを行いながら、考えを深めている。 【知・③】、【学・①】 (ワークシート、発言)
終末 5分	3 今日の授業で学んだことを振り返る。	全体	○生徒数名に発表してもらい、学びの共有化を図る。

5 単元の目標と指導計画及び評価の計画、評価規準

(1) 単元の目標 (育成を目指す資質・能力)

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
① 職業の特徴や資格, 進路について理解する。 ② 収集した情報を手際よく分類し, 分かりやすい方法で表すことができる。 ③ 働くことの意義を考える学習が, 将来の職業選択のみならず, 今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解する。	① 働くことの意味について, 自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから, 自分自身で課題を設定し, 見通しをもつ。 ② 他者に自分の考えが伝わるように, 目的に合わせて情報を分類したり, 効果を意識して表現方法を組み合わせたりすることができる。 ③ 自分の考えをまとめ, 相手や目的, 意図に応じて表現することができる。	① 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。 ② 探究的な活動を通して, 自分の生活及び地域との関わりを見直し, 自分の特徴やよさを理解しようとする。

(2) 指導と評価の計画 (18時間)

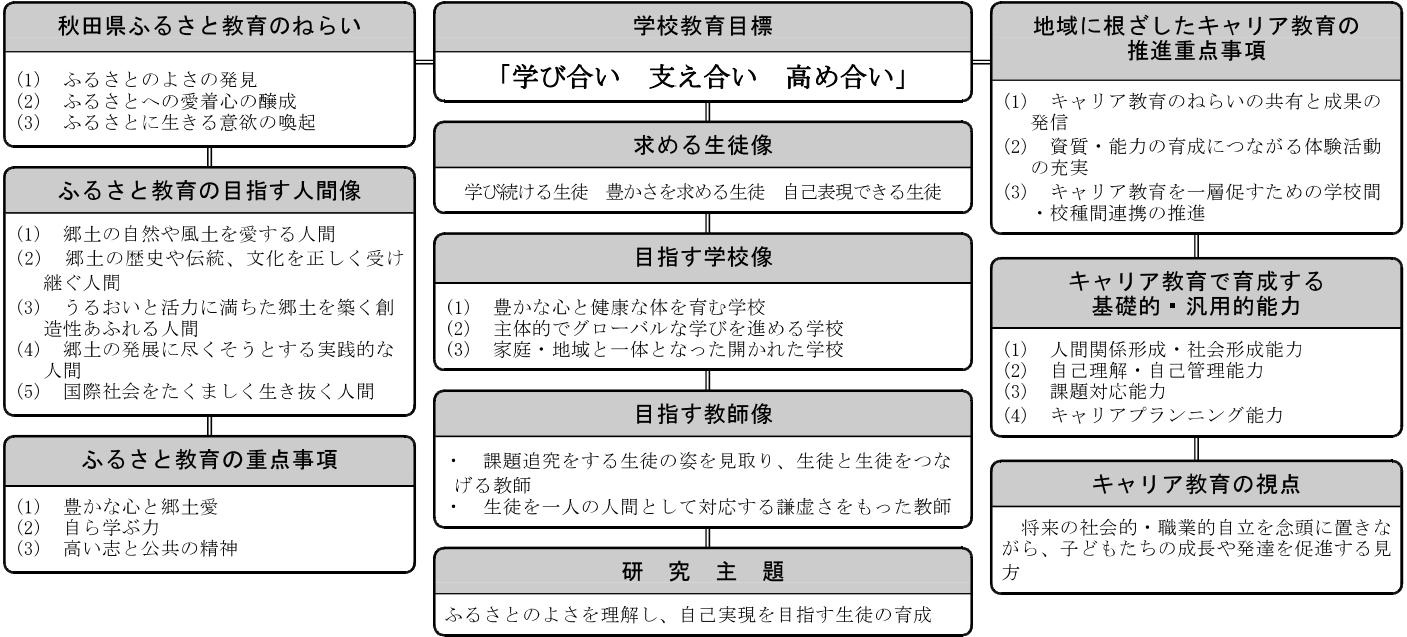
小単元名 (時数)	主な学習活動	評価方法及び評価規準	
働くことについて考えよう (8)	○ガイダンス ・全体計画とねらいを知り, 見通しをもつ。 ○働くことについて考える。 ・働くことについてのイメージや目的, 職業の特徴や適性などを自由に挙げ, それを基に意見交換をして, 考えを広げる。 ○職場体験先を決める。 ・地域にある職業を知り, 職場体験学習をする事業所を決定する。事業種ごとに働くことの意味を探る計画を立てる。 ○個人テーマを決め, 職場体験での目的を考える。 ・働くことについての疑問点をまとめ, 自分なりのテーマを設定する。 ○職場体験の計画表を作成する。 ・訪問先の場所や移動手段など, スムーズに体験できるように計画を立てる。 ○質問内容を精選する。 ・グループで話し合い, 施設を訪問しインタビューする内容を考える。	・ワークシート ・ワークシート ・振り返りシート ・発言	知・① 知・② 思・① 学・①
実際に働き, 自己の生き方を考えよう (10)	○職場体験学習を行う。 ・実際に体験学習を行い, 事業所の方にインタビューしたり, 体験から情報を収集したりする。 ○レポートを作成する。 ・職場体験で学んだことや考えたことをまとめる。 ○働くことについてまとめる。 ・インタビュー活動で得た情報や職場体験を通して記録したことを整理・分析し, 仕事をする理由と自己の成長の関係を知る。 ○働くことについてグループで話し合う。 ・働くことについてグループで考えや意見交換をし, 学年での発表に向けての準備をする。 ○学年で発表会を行う。(本時) ・他者の発表を聞き, 自分と他者の考えとを比較しながら, 働くことについて自己の考えを深める。 ○自分の将来や生き方について考える。 ・これまで学習した働くことの意義や価値を生かし, 自分の将来や生き方について考え, まとめる。	・レポート ・振り返りシート ・振り返りシート ・発言 ・ワークシート ・発言 ・振り返りシート	思・② 知・③ 思・③ 知・③ 学・① 学・②

(3) 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 職業の特徴や資格, 進路について理解している。 ② 収集した情報を手際よく分類し, 分かりやすい方法で表している。 ③ 働くことの意義を考える学習が, 将来の職業選択のみならず, 今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。	① 働くことの意味について, 自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから, 自分自身で課題を設定し, 見通しをもっている。 ② 他者に自分の考えが伝わるように, 目的に合わせて情報を分類したり, 効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。 ③ 自分の考えをまとめ, 相手や目的, 意図に応じて表現している。	① 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ② 探究的な活動を通して, 自分の生活及び地域との関わりを見直し, 自分の特徴やよさを理解しようとしている。

ふるさと・キャリア教育推進全体計画

目指す姿：ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり



今年度の重点

- 自己理解の必要性・重要性について指導（性格、能力、適性、職業的な興味・関心の傾向など）
- 進路に関しての情報・資料の提供（職業の種類やその内容、上級学校の学科など）
- 望ましい勤労観や職業観の形成（人生観、価値観など）

ふるさと・キャリア教育の全体目標			
自己理解・自己判断ができ、自己実現を目指す生徒の育成			
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。	自己の個性や興味・関心を知り、それに基づいてよりよい選択をしようとする。	諸活動で得たことを、以後の学習や選択に生かすことができる。	将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。

ふるさと・キャリア教育における各学年の目標		
第1学年	第2学年	第3学年
○ 身近な人たちの生き方を通して、自分の在り方、生き方に気付き、自分の将来に対する見通しを立て、よりよく行きようとする態度を育てる。	○ 職場体験などをきっかけに、自分の特性や進路情報についての理解を一層深め、進路設計を吟味し、よりよい進路の選択ができる能力を高める。	○ 望ましい勤労観や職業観をもたせ、将来的な願望に立った適切な進路選択や進路決定ができる能力を養う。

各教科等における指導内容								
教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動				進路相談	保護者・地域との連携
			学級活動	生徒会活動	学校行事	その他の特別活動		
○ 各教科の学習を通して生徒にとって新しい知識の獲得や自己発見の啓発的な経験や体験の機会を与える。	○ 道徳の時間を中心に望ましい勤労観・職業観の育成を図る。また人間としての生き方の自覚を深めることにより自己の進路に関わる生き方を考えさせる。	○ 興味・関心に基づく学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を身に付けさせる。 ○ 情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身に付けさせる。	○ 生徒一人一人が個性や能力・適性について理解を深めさせる。	○ 活動に当たっての目標や目的を生徒自らの手で定めさせ、自発的・自治的活動を行わせる。 ○ 生徒自らが豊かで充実した学校生活を創造しようとする意欲や態度を育てる。	○ 勤労生産・奉仕的な行事やボランティア活動を通して働くことの意義を理解させ、社会に対して奉仕しようとする心を養う。	○ 職場見学や職場体験等を通して望ましい職業観のあり方を実感させ、自己の職業観を確かなものにしていく。	○ 自己理解を深めさせるために自己分析カードを参考資料として、個別やグループによる進路相談を実施する。また、保護者を交えた三者面談等により、生徒と保護者が納得する進路指導を目指す。	○ 進路に関する情報を計画的に保護者や地域に提供することにより保護者に進路指導の重要性を認識させるとともに、適切な理解や関心をもたせる。

体験活動		
にしせんプロジェクト ◆小・中連携 ◆あいさつこだま運動 ◆総合体育大会社行会 ◆小・中クリーンアップ ◆小学校学習会へのボランティア活動 ◆中学校一日体験入学		
第1学年	第2学年	第3学年
○宿泊体験学習（7月 課題対応能力／人間関係形成・社会形成能力） ○身近な職業調べ（8月 キャリアプランニング能力） ○綱よい（1月 人間関係形成・社会形成能力）	○職場体験学習（9月 人間関係形成・社会形成能力／キャリアプランニング能力） ○上級学校訪問（11月 キャリアプランニング能力）	○修学旅行（9月 課題対応能力／人間関係形成・社会形成能力） ○高校体験入学（7月～9月 自己理解・自己管理能力）

進路指導計画

研究主題

生徒一人一人の心に寄り添う進路指導の充実
～自己理解・自己判断ができ、自己実現を目指す生徒の育成～

1 基本的な考え方

- (1) 一人一人の生徒が、主体的に将来の進路を計画・選択し、望ましい勤労観や職業観を育みながら、「いかに生きるべきか」を考えさせるようにする。
- (2) 職業に関する知見を深める情報提供と勤労体験的な学習により、健全な職業的態度の形成と働く人々に対する共感的な理解ができるようにする。

2 進路指導の目標

生徒一人一人が自分の適性を考え、主体的に将来の進路を計画・選択し、その後の職業生活の中で、十分な自己実現ができるようにする。

3 学年の重点目標

- 1年：職場訪問や身近な人たちの生き方を通して、自分の在り方、生き方に気付き、自分の将来に対する見通しを立て、よりよく生きようとする意欲や態度を高める。
- 2年：職場体験などをきっかけに、自分の特性や進路情報についての理解を一層深め、進路設計を吟味し、よりよい進路の選択ができる能力や態度を育てる。
- 3年：望ましい勤労観や職業観をもたせ、将来的に適切な進路選択や進路決定ができる態度を養う。

4 施策

- (1) 3年間を見通した、全職員による組織的・計画的な進路指導計画を作成する。
- (2) キャリア教育アンケートや二者・三者面談を行い、生徒一人一人の基礎的・汎用的能力を把握する。
- (3) 各学年におけるキャリア発達課題に応じた系統的な進路指導を推進する。
- (4) 職場体験学習やふるさと学習など、地域との協力・連携による広範囲の進路指導を実践する。
- (5) 進路指導報等による進路学習全般の研修を行う。

5 重点的に行う教育活動

- (1) 生徒が自己理解を深め、自分の生き方について考えられるよう指導・助言する教育活動。
- (2) 生徒が情報を活用し、主体的に進路を選択できるよう指導・助言する教育活動。
- (3) 生徒が職場体験学習や上級学校訪問、高等学校の体験入学を通して、進路について具体的な情報を得るとともに、自己の能力・適性について考えられるよう指導・助言する教育活動。
- (4) 生徒が進路に関する悩みや問題の解決を図り、望ましい進路の選択やその実現に取り組めるよう指導・助言する教育活動。
- (5) 中学校卒業時の進路が決まらない生徒に、進路決定に向けて指導・助言する教育活動。

「総合的な学習の時間」年間指導計画

育成を目指す資質・能力

A: 知識及び技能

B: 思考力・判断力・表現力①【課題の設定】②【情報の収集】③【整理・分析】④【まとめ・表現】⑤【振り返り】

C: 学びに向かう力、人間性等①【主体性】②【協働性】③【自己理解】④【他者理解】⑤【社会参画】

学年	1年	2年	3年
探究課題	地域の伝統・文化継承に取り組む人々や組織など	地域の産業及び生産者とまちの活性化	まちづくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織
テーマ	郷土を見つめて	人として・社会のために	将来をよりよく生きるために
学習のねらい	1地域の自然や伝統文化等についての探究的な学習を通して、地域が抱える現状と課題を明らかにし、課題解決に向けて主体的に情報を収集したり、見いだした事実や関係を比較したりしながら考え、地域と自分との関わりを理解するとともに積極的に行動しようとする態度を育てる。	1. 職業調べや職場体験活動を通して自分の特性や将来の生き方について考えることができる。 2. 職場体験学習を通して、積極的に他と関わろうとする態度を身に付けることができる。 3. 様々な体験活動を通して学んだことを詳しくまとめ、相手に分かりやすく伝えることができる。 4. 地域社会における産業等の諸問題を見付け、その解決策を考えることができる。	1. 高校体験入学を通して得た知識や自分の考えを相手に分かりやすく説明することができる。 2. 進路学習や高校体験入学を通して自分の進路についての具体的な考えをもつことができる。 3. これまでの学習をつなげ、自分や地域、社会全体を関連させ、よりよい生き方をするために大切なことについて考え、具体的な企画を練ることができる。
評価	・課題設定の仕方を知り、見直しをもって取り組むことができる。 ・課題解決の取組について発表したり、まとめたりする方法を知ることができる。	・設定した課題に対して、情報を集め吟味することができる。 ・課題に対する自らの考えをまとめたり、発表したりすることができる。	・設定した課題に対して、情報を集め吟味し、活用することができる。 ・自分の生き方を考え、適切な進路を考えることができる。
内容	i 地域に関する課題を見付け、探究する ii 職場訪問 iii 大綱講話及び綱よい・綱のぼし体験学習	・職場体験学習 ・上級学校訪問(自主研修) ・綱よい・綱のぼし体験学習	・高校体験入学(夏季休業) ・西仙北地域PR活動(修学旅行) ・ライブプラン
4月	オリエンテーション(1) A C① <西仙北中生としての自覚と誇りをもとう>(4) C①②④ ☆ひまわり化粧～開花～撤去……4月(化粧・開花)11月(撤去) ・西仙北中をアピールするとともに、新入生は西仙北中生の一員となったことを実感しよう。 ・自分たちのこれまでの活動を讃え合い、感謝の気持ちを込めて撤去しよう。		
5月	各学年で総合の全体的な流れの説明と各学年での事前指導など(1) C① i <地域を見つめて(4)> ・小学校で学んできたことなどから、地域に関する疑問や発見から課題を見付け、探究する。 【課題設定】 ・地域に関する疑問や発見から課題を設定する。 【情報の収集】 ・課題解決の方法を考え、自分の考えた方法で情報収集をする。 【整理・分析】 ・集めた情報を整理・分析し課題解決につなげる。		
6月	A B① C③ B② C② B③	<職場体験(18)> ・職業の分類 ・職業調べ ・社会のルールやマナーの習得 ・自己の職業観・勤労観のまとめ ・地域の産業についてのまとめ ・地域の可能性についてディスカッション	A B ①② ③④ ⑤ C ①③ ⑤ 修学旅行の事前学習
7月			
8月	夏休みの課題 ・各学年で「地域」に関する個人研究を行う。		
9月		・職場体験 ・まとめ、プレゼンテーション	<西仙北中地域PRプロジェクト(11)> ・修学旅行 実際の活動⑥ ・検証・まとめ⑤
	<年度途中の振り返り>(2)発表に関する事前指導 B⑤		
10月	<ふるさとや地域を愛する気持ちをもち、自分をとりまく人々への感謝の気持ちを表現しよう>(10) ☆大いなる秋田(8) C①②④ ・秋田のよさを再認識し、名曲を歌い継ごうとする意識を高め、地域の方々とのつながりを深めよう。 ☆Nishisenソーラン(2) C①②④ ・西仙北中生のパワーをアピールし、地域の方々へ元気を与え、全校生徒による一体感を味わおう。 ★立志祭でこれまでの学習成果の中間発表を行う(各学年)(10)事前準備も含む B③④ C①		
11月	A B ① ② ③ ④ ⑤	<上級学校訪問(12)> ・上級学校訪問 ・訪問の際、ふるさと西仙北に関連する情報収集(自然環境・産業・観光・文化芸術・伝統など)	<将来の生き方を考える>(8) ・将来の生き方と地域や社会との関連についての考察 ・地域住民、有識者との意見交換 ・西仙北地域活性化プロジェクト(各グループでまとめ)
12月		・まとめ(パンフレットかポスター) ・綱よい・綱のぼし体験	B ③④ ⑤ C ①② ⑤ <将来の生き方を考える>(3) ・まとめ(各自で決める)
1月	A C ① ② ⑤		
2月	<成果発表会>(10)事前準備も含む B③④ C①② ★学年末PTAで保護者、地域住民に対してこれまでの学習成果を発表し、今後の取り組みを考える。		
3月	<今年度の振り返りと次年度の課題>(2) B⑤ 保護者や地域の要望も含め、今後の課題を見つけ解決策を考える。		
時数	1年 全校40+学年10=計50	2年 全校40+学年30=計70	3年 全校40+学年30=計70